

Jリーグ新参入チームにおける外傷・障害の検討

○井谷 智, 阿部 信寛, 古松 毅之, 雑賀 健太, 高田 直樹, 横山 裕介,
千田 益生, 尾崎 敏之

岡山大学 整形外科

【目的】

2009年Jリーグに新参入したクラブチームにおける昇格初年度の外傷・障害の発生について調査した。同一チームの過去のシーズンのデータ(2007年, 地域リーグ所属)と比較できる項目については比較し, カテゴリーが変わったことで外傷・障害発生の発生に違いが生じたか検討した。

【方法】

2009年2月から2009年10月までに, あるJ2クラブチームに所属したプロサッカー選手48名(平均年齢23歳)に発生したスポーツ外傷・障害を調査対象とした。

【結果】

2009年シーズン(2009年10月末までJ2リーグ戦47試合, 天皇杯1試合)における傷害の総数は52例(2007年シーズンは42例, 以下括弧内は2007年シーズンの発生数)であった。そのうち外傷が40例(35例), 障害が12例(7例)であった。部位別では頭部・体幹5例(7例), 上肢3例(6例), 下肢44例(29例)であった。手術的加療を要したものは8例(3例)であった。

【考察】

J昇格によりメンバーも入れ替わり, 単純な比較はできないが, 外傷・障害の発生数は地域リーグ時代と比較して増加していた。手術を要した8例中4例はJリーグの試合中での外傷であった。過密な日程が外傷・障害発生の一因となっていると考えられた。